

親子でのスポーツ 機会の創出

大阪体育大学 中山ゼミ

村山芽衣 宮本琢也 辰巳大河

丸山真之 雪下風弥

目次

- 1 緒言
- 2 研究背景
- 4 現状認識
- 5 提案・提言

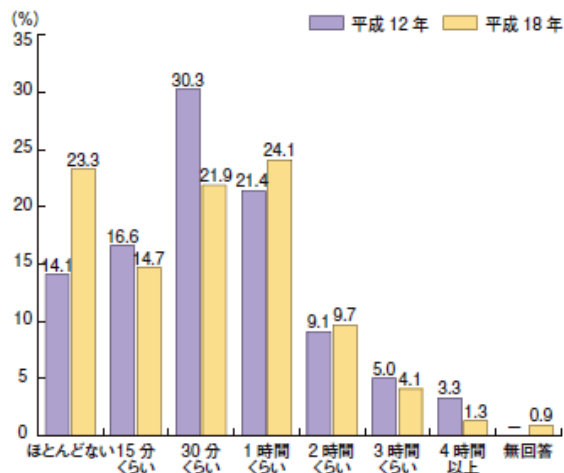


家族で散歩、ピクニック、公園でのひととき。
今までであった習慣が無くなりつつある今。

現代日本における親子スポーツの問題

- 親子での接触時間の減少
(外で身体を一緒に動かす頻度)
- 子供の体力低下 (約7歳～20歳)
- 大人の体力低下 (20歳～)
- 生活習慣病

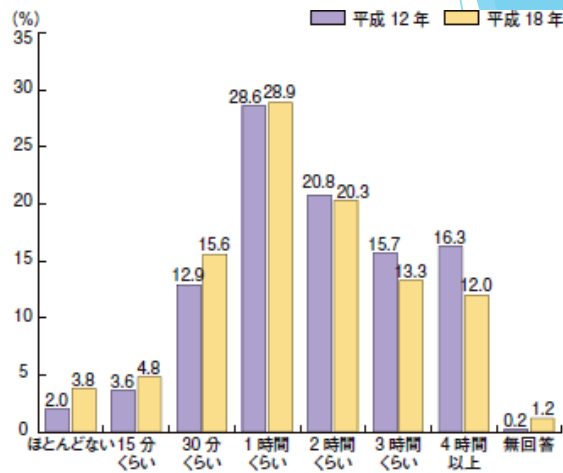
現状認識① 父・母と子供(9~14歳) が平日に触れ合う時間の減少



資料：平成12年は内閣府「青少年の生活と意識に関する基本調査」
平成18年は内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」

父親

3時間以上が減少し、1~2時間くらいが増加、さらに、30分くらい、15分くらいが大きく減りほとんどないが大きく増加している。全体的に短い時間へシフトしており、平成18年においては、平日の親子の接触時間が「ほとんどない」とした父親が23.3%、人に1人という結果となっている。



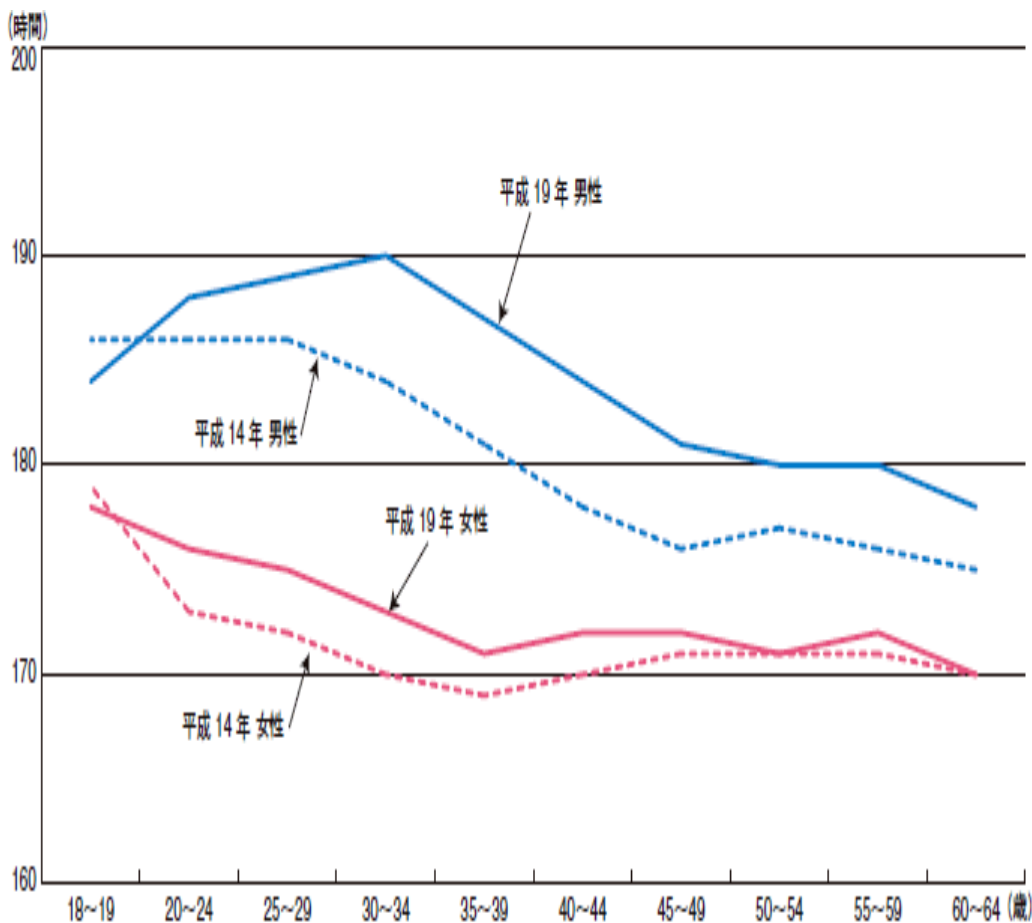
資料：平成12年は内閣府「青少年の生活と意識に関する基本調査」
平成18年は内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」

母親

父親ほどではないものの、長時間触れ合うことが減少し、短時間のふれあい時間が増加している。

現状認識② 化

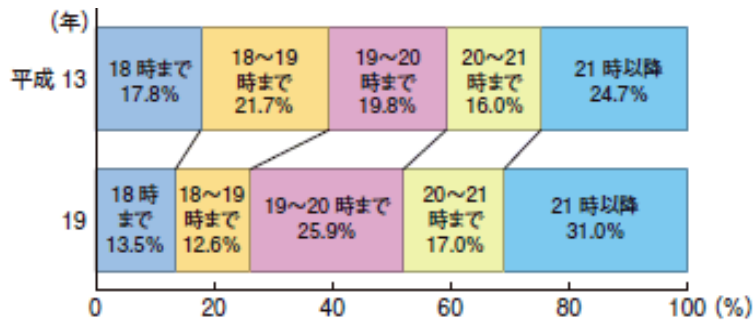
両親の勤務時間の長時間



資料：「賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)をもとに厚生労働省(労働政策担当参事官室)にて推計

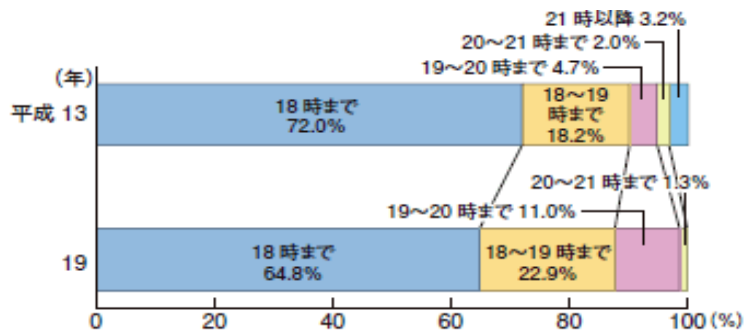
- ・ 両親の勤務時間
男性において全体的に労働時間が増加しているが、特に20代~40代半ばのいわゆる子育て世代において特に労働時間が増え、結果として触れ合う時間の確保が難しい、ということにつながる。女性の同世代においては男性ほど顕著なものではないものの、やはり労働時間は増加し、子育て世代の勤務時間において差が開いてしまっている。

現状認識③ 両親の帰宅時間



資料：平成13年は「児童環境調査」（厚生労働省）
平成19年は「国民生活選好度調査」（内閣府国民生活局）の特別集計

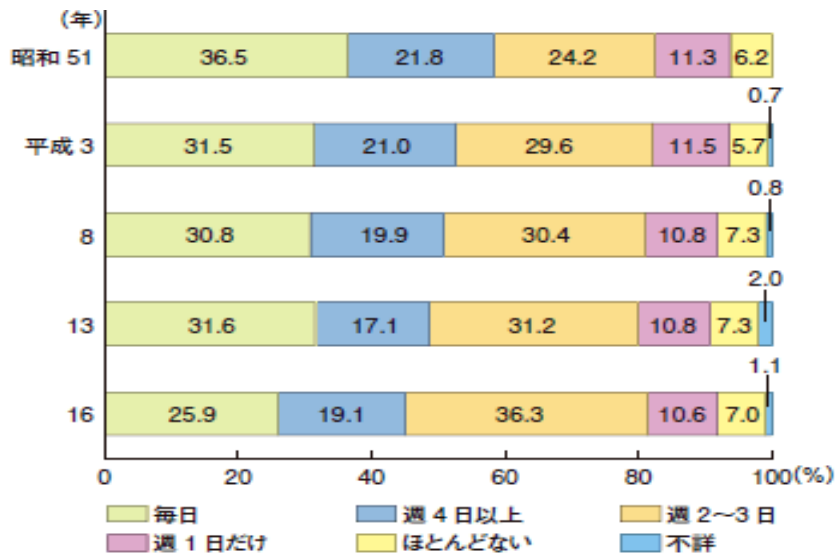
・父親
労働時間が長時間化していることによって19時までの帰宅割合が減少し、20時以降の帰宅が増えている。



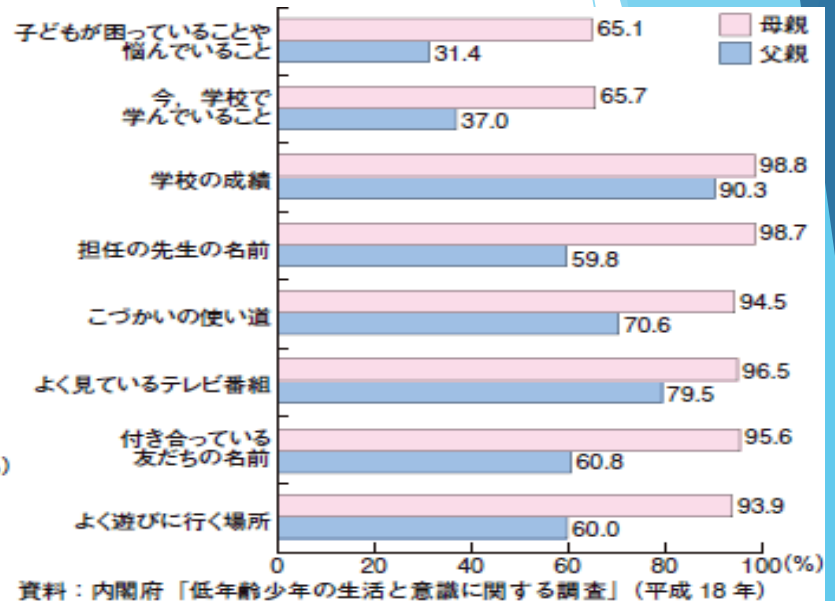
資料：平成13年は「児童環境調査」（厚生労働省）
平成19年は「国民生活選好度調査」（内閣府国民生活局）の特別集計

・母親
18時までの帰宅が減少し、18時~21時までの帰宅の割合が増えている。父親と同様労働時間の長時間化が原因となっている。

現状認識④ 家族団らんの時間の減少



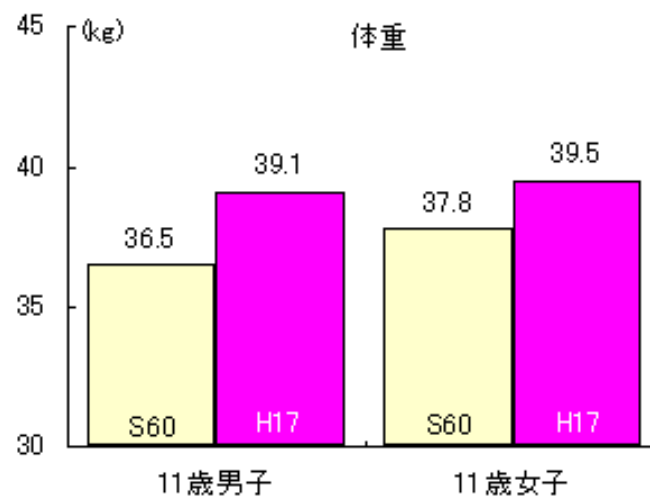
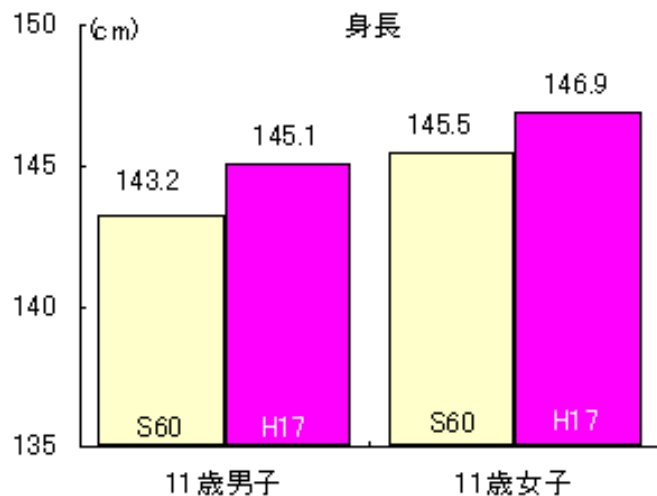
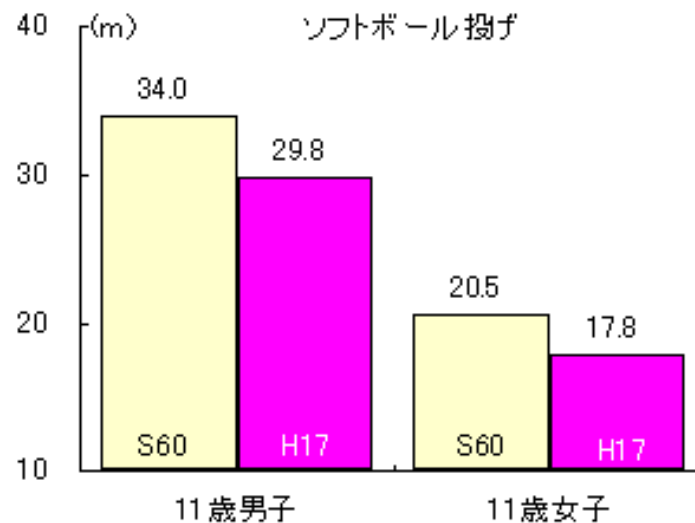
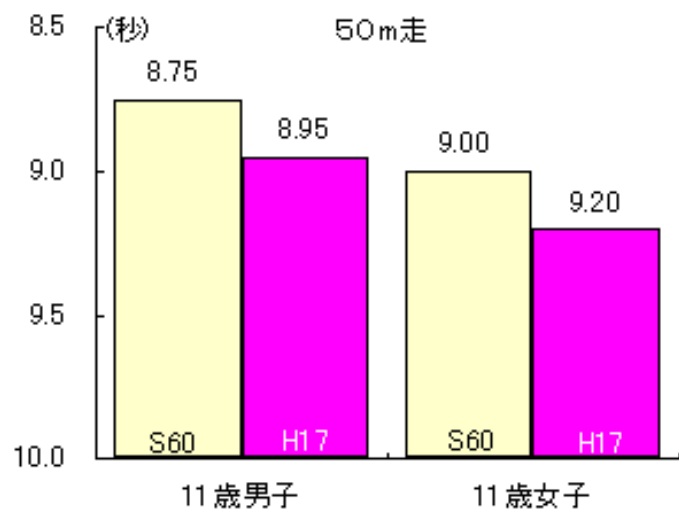
資料：厚生労働省「児童環境調査」（昭和51、平成3、8、13年）及び「全国家庭児童調査」（平成16年）により作成



資料：内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」（平成18年）

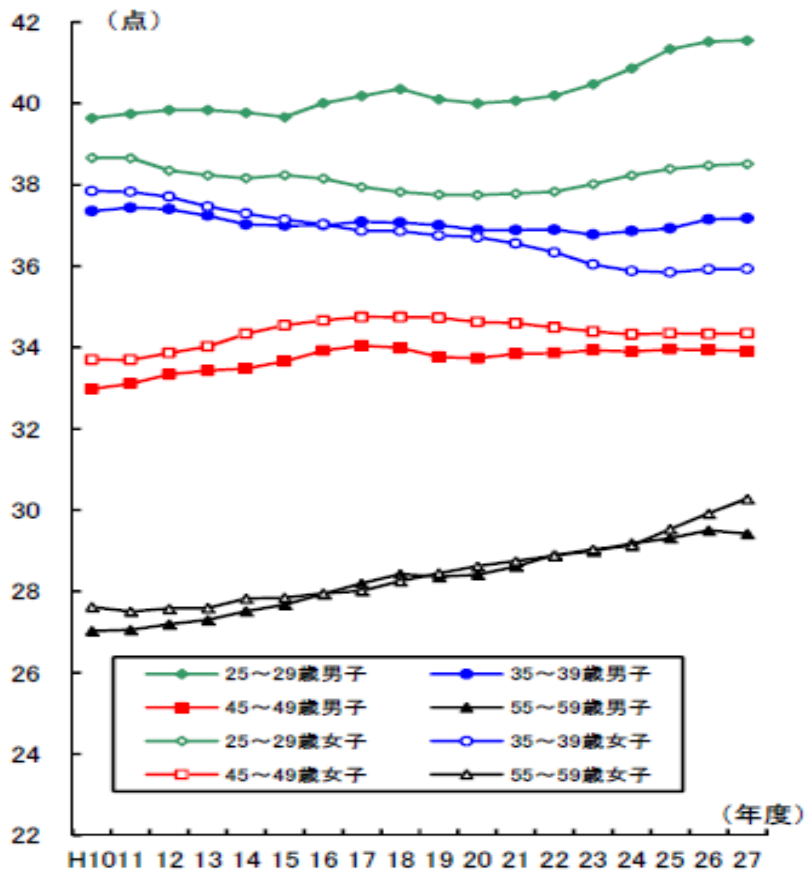
両親の労働時間の長時間化、帰宅時間が遅くなっていることによって家族そろって団らんという時間が減少してしまっている。それによって家族で会話をすることが減ることによって親が子供のことを理解することのできる機会が減り、会話のネタもなくなってしまう。結果親子で何かを一緒にしようと相談したり企画したりすることも同時に減ってしまう。

現状認識⑤ 子供の体力



現状認識⑥

体力低下の傾向



子育て世代である20代～40代において25～29歳男子では上昇しているがそのほかの世代においては横這いもしくは低下という現状である。

図3-9 新体力テストの合計点の年次推移

- (注) 1. 図は、3点移動平均法を用いて平滑化してある。
2. 合計点は、新体力テスト実施要項の「項目別得点表」による。
3. 得点基準は、男女により異なる。

両親の勤務時間の長時間化により
帰宅時間が遅くなることで親子の
接触時間が減少している。

よって、体力低下の遠因ともなっ
ていると思われる。

体力低下に伴ない生活習慣病の可
能性の原因のひとつとしても考え
られる。

調査活動

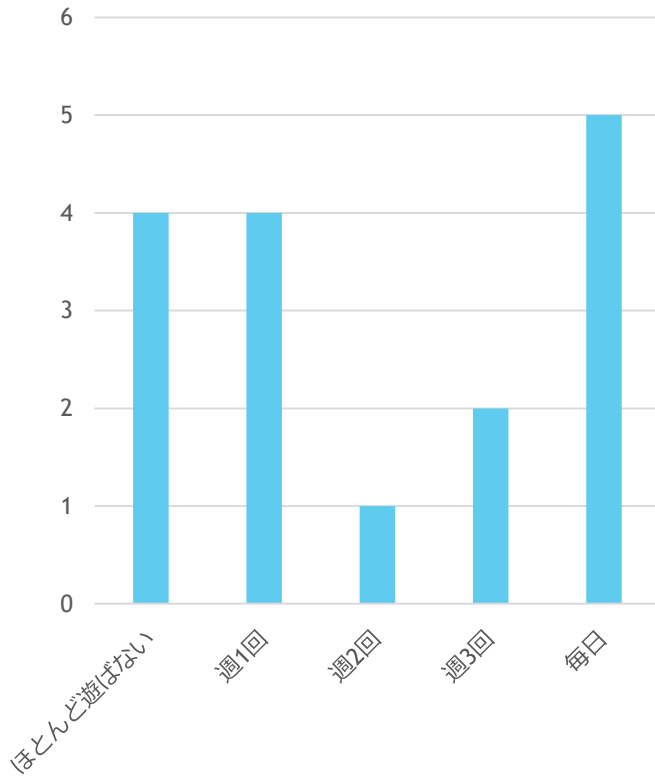
日時	2016年8月5日 11：30～14：00
場所	大阪府淡輪海水浴場
調査人数	16組
調査方法	アンケート調査
天気	晴れ
状況	海水浴場には人は少なかった。



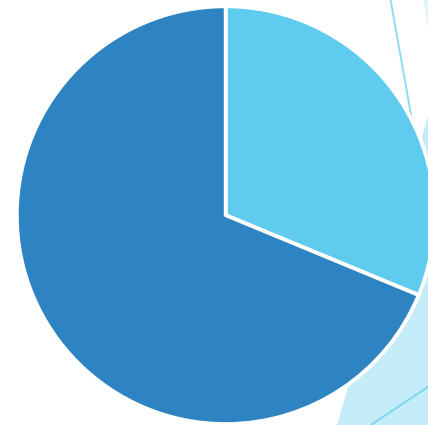
調査活動 結果報告

(8/5 大阪府淡輪海水浴場)

週に何回親子で遊ぶか



スポーツイベント参加経験



■ある ■ない

参加・不参加の理由

▶ もし参加するなら...

- ・ サッカーイベント
- ・ 夏ということもあり海でのイベント
- ・ 子供が楽しめそうなら
- ・ 室内の涼しい場所
- ・ 気候に左右されない室内アスレチック
- ・ 宝探し
- ・ 迷路
- ・ スポーツ基礎
- ・ 親子のサッカーイベント
- ・ 子供の面倒を見てもらえるなら
- ・ お金がかからない
- ・ 遊具を用いた

▶ 参加しようと思わない理由...

- ・ 仕事により休日がほとんどない
- ・ 親子で楽しむ必要性が感じられない
- ・ しんどい
- ・ 普段から遊んでいるため日常における遊びで十分

この結果からやはり子供と親で遊ぶ機会は普段から確保されていないことが分かる。

インターネット調査と照らし合わせても親子の接触時間の確保があまりないことが分かる。

運動することで、



健康



病院へ行く頻度が減少



使用する保険料の減少、国民の活気



国の活性化

そこで、
親子でのスポーツ機会を増やす政策提言を
考案するに至った。

提案・提言

親子そろって運動する機会
(スポーツイベント) の開催

管轄は厚生労働省の保険局と
イベントの開催と促進をスポーツ庁

認知度・参加率の増加を促すポイント

として・・・

厚生労働省

スポーツイベントの参加することでポイントを付与し、健康改善に伴なって病気による支出の減少から、保険料の負担額を軽減を段階化。

スポーツ庁

地域のスポーツ団体やスポーツイベント企画団体、総合運動施設等に助成金を与えたり、スポンサーの確保の補助。

イベントに参加したことでメリットがあるようなシステムを作り、デメリットが生じないようにする。

しかし、マイナスポイントは生じない。

というシステムを取り入れる。

今後・・・

日本国内も家族内もhappyになれるような政策にしていくことが求められる。

参考文献

<http://benesse.jp/kyouiku/201311/20131125-1.html>

ベネッセ 教育情報サイトより

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344534.htm

文部科学省HP

http://www8.cas.go.jp/youth/whitepaper/h20honpenhtml/html/toku_2_1.html

平成20年版青少年白書

http://wwwmext.go.jp/component/b_menu/other/_iceFiles/afieldfile/2015/10/13/1362687_03.pdf

平成26年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書について

<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2014/003990.php>

保健指導ソースガイド

ご清聴ありがとうございました。